



F-REIの最近の動き (令和7年4月～)

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

令和7年4～7月の出来事

4月1日	環境創造センター三春町施設における放射性物質の環境動態研究のF-REIへの統合、福島ロボットテストフィールドのF-REIへの統合	7
4月26日	福島国際研究教育機構 起工式を開催	8
4月26日	F-REI 2周年記念シンポジウムを開催	9
4月26日	「エフとも」を創設	10
5月19日～24日	2025年大阪・関西万博に出展	11
5月27日	F-REIトップセミナー（会津大学）を開催	12
5月28日	第1回エフとも通常総会を開催	13
6月11日	F-REIトップセミナー（福島大学）を開催	14
6月18日	F-REIトップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催	15
6月19日	F-REIトップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催	16
7月1日	アドバイザー就任	17
7月4日	出前授業（原町高等学校）を開催	18
7月11日	F-REI座談会（浜通り地域等・エネルギー分野）を開催	19
7月14日	F-REIトップセミナー（筑波大学）を開催	20
7月15日	第5回アドバイザーリーボードを開催	21

令和7年7月～10月の出来事

7月28日	出前授業（日本大学東北高等学校）を開催	22
7月29日	第4回新産業創出等研究開発協議会を開催	23
8月1日	分野長・副学長（原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野）の決定	24
8月1日	研究体験講座を開催	25
8月3日	出張版サイエンスラボを開催	26
8月4日	出前授業（磐城高校）を開催	27
8月16日～17日	国際STEAMワークショップ ^o in Fukushima 2025を開催	28
8月18日	国際アドバイザーとの意見交換を実施	29
8月19日～22日	2025カーカム会議に参加	30
8月25日～27日	令和7年度サマースクールを開催	31
8月29日	理化学研究所環境資源科学研究センターと連携・協力に関する協定を締結	32
9月13日	F-REIサイエンスラボ「秋のわくわく科学実験」を開催	33
9月16日	F-REI・CCRI国際ワークショップ ^o を開催	34
10月10日～12日	WRS2025過酷環境F-REIチャレンジを開催	35
10月21日	エフともカフェ（浪江町）を開催	36

令和7年10月～12月の出来事

10月28日	東京大学大学院情報学環と連携協力に関する基本合意書を締結	37
10月28日	出前授業（会津学鳳高等学校）を開催	38
10月29日	エフともカフェ（双葉町）を開催	39
10月30日	出前講義（東北大学）を開催	40
11月1日～2日	F-REI国際シンポジウムを開催	41
11月4日～5日	英国原子力公社（UKAEA）と廃炉ロボット技術に関するワークショップを開催	42
11月7日	F-REIトップセミナー（福島県立医科大学）を開催	43
11月19日	福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin会津大学を開催	44
11月22日、29日	「おしごと図鑑をつくろう！ー水素タウン編ー」を開催	45
11月26日	エフともカフェ（浪江町）を開催	46
11月26日	出前授業（安積黎明高等学校）を開催	47
11月27日	出前講義（獨協医科大学）を開催	48
11月29日	出張版サイエンスラボを開催	49
12月4日	福島イノベ構想参画促進セミナーin会津若松が開催	50
12月9日	出前授業（ふたば未来学園高等学校）を開催	51
12月17日	出前授業（福島高等学校）を開催	52

令和7年12月以降の出来事

12月22日 F-REI座談会（ロボット分野）を開催	53
12月22日 第8回HOMEあう会を開催（エフとも協力）	54
12月24日 研究体験講座を開催	55
1月14日 福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin福島大学を開催	56
1月19日～20日 第2回英国原子力公社（UKAEA）と廃炉ロボット技術に関するワークショップを開催	57
1月21日 F-REI研究者と企業の交流会を開催	58
1月28日 エフともカフェ（富岡町）を開催	59
2月3日 第6回アドバイザリーボードを開催	60
2月9日 あぶくま信用金庫と連携協力協定を締結	61
2月9日 いわきものづくり塾® 成果発表会&交流セッションを開催	62
2月10日 エフともカフェ（大熊町）を開催	63
2月13日 出前授業（原町高等学校）を開催	64
2月16日、17日、19日 プログラミング教育（なみえ創成小学校）を開催	65
2月18日 「農林水産分野の先端技術展開事業」の研究成果報告会を開催	66
2月18日 第5回浜通り復興リビングラボシンポジウムに参加	67
2月27日 出前授業（安積中学校）を開催	68

令和8年3月以降の出来事

3月5日 第37回国際セミナーで山崎理事長が講演	69
3月10日 兵庫県立大学と連携協力に関する基本合意書を締結	70
3月17日 令和7年度 第1回 F-REI産学官ネットワーク・セミナーを開催	71
3月17日 放射性物質の分析人材育成（現地訪問型研修）を実施	72
3月19日 「Idea for Future Award 2025ふくしまwith F-REI」の表彰式を開催	73
3月19日 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会で大西ユニットリーダーが講演	74
3月20日 出張版サイエンスラボを開催	75
3月26日 浪江・富岡ロータリークラブ合同例会に参加（エフとも）	76
4月1日 分野長・副分野長が就任	77
4月1日 岩手大学と連携協力に関する協定書を締結	78

令和7年4月1日（火）

環境創造センター三春町施設における放射性物質の環境動態研究のF-REIへの統合、福島ロボットテストフィールドのF-REIへの統合

■ 環境創造センター三春町施設における放射性物質の環境動態研究のF-REIへの統合

4月1日、F-REIの基本構想に位置付けられた「司令塔」の機能を発揮するため、JAEA及びNIESが環境創造センター三春町施設において実施していた放射性物質の環境動態研究については、F-REIに統合しました。

F-REIでは、本統合により、これまでの放射生態学ユニットの研究、JAEA及びNIESが実施していた研究を踏まえ、放射性物質の環境動態に関する研究の一体的・総合的推進を図ります。



■ 福島ロボットテストフィールド（RTF）のF-REIへの統合

4月1日、福島県が管理・運用していた福島ロボットテストフィールド（RTF）について、これまでの機能及び成果をF-REIが継承するとともに、ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指すために、F-REIに統合しました。

F-REIでは、統合後のRTFの活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、RTFを利用する企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指します。



令和7年4月26日（土） 福島国際研究教育機構 起工式を開催

4月26日、F-REI本施設予定地で「福島国際研究教育機構 起工式」が開催されました。

起工式では、山崎理事長より祝辞を述べるとともに、工事の安全や円滑な進行を祈願して伊藤復興大臣、内堀福島県知事、浜通り地域等15市町村の首長等と共に鍬入れを行いました。

F-REI本施設について、本部施設棟は令和10年度完成を、研究施設等その他の施設は令和12年度末までの順次供用を目指しています。



令和7年4月26日（土） F-REI 2周年記念シンポジウムを開催

4月26日、F-REIの「2周年記念シンポジウム」を浪江町で開催しました。

F-REIの創設から2年が経過し、組織・人員の整備が進むとともに、研究ユニットの創成、企業等とのネットワーク形成、人材育成等の取組が本格化しつつあります。本シンポジウムは、こうした節目にこれまでの活動を振り返り、今後の展望を広く共有することを目的に開催したものです。

山崎理事長や大西ユニットリーダー、復興庁鈴木参事官による講演のほか、浜通り地域の未来を描く地域の子どもたちによる発表や、参加者の皆さまにお楽しみいただけるコンテンツの展示などを行いました。

当日は、ご来賓の皆様を含め、295名の大勢の方にご参加いただき、大盛況のうちに開催することができました。

※詳細は下記HPをご確認ください。

https://www.f-rei.go.jp/activity/2nd_anniversary_symposium_report.html



令和7年4月26日（土） 「エフとも」を創設

4月26日、福島浜通り地域等を中心とした教育・科学・文化の振興プラットフォーム「エフとも」を創設しました。

「エフとも」は、F-REI および福島県浜通り地域等に拠点を有し、地域の教育、科学、文化等の振興を目的とした機関が、それぞれ主催し、取り組んでいる活動について、広域連携により取組の効果を高めるため、これらの活動の相互扶助（互助）を行う仕組みです。これにより、互いの活動内容を理解しつつ、より身近な存在として広く地域に認知していただく一助とします。

F-REI では、この「エフとも」を通じて、多様な機関との連携を深め、「共感」と「巻き込み」を高めていくことで、メンバー機関の取組のインパクト最大化を図ってまいります。

※詳細は下記HPをご確認ください。

https://www.f-rei.go.jp/f_tomo/index.html



令和7年5月19日（月）～24日（土） 2025年大阪・関西万博に出展

F-REIは、2025年大阪・関西万博において、5月19日（月）から24日（土）の間、復興庁万博テーマウィーク展示「東日本大震災からのよりよい復興（Build Back Better）」に、ブース出展を行いました。

F-REIのブースでは、F-REIが描く未来像や取組内容をアニメーションで紹介しながら、F-REIの研究が作り出す未来の森や街、研究所の姿をご覧ください。

会期中は、6日間で延べ1万人を超える多くの皆様にご来場いただきました。お子さまから大人まで幅広い世代の方々にお越しいただき、連日大盛況のうちに展示を終えることができました。

※詳細は下記HPをご確認ください。

https://pwcms.f-rei.go.jp/activity/expo_2025_frei.html



令和7年5月27日（火） F-REIトップセミナー（会津大学）を開催

5月27日、会津大学コンピュータ理工学部の1年生約240名を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REIの山崎理事長が講師を務め、「コンピュータ理工学部のみなさんへ～これからどう過ごす？ 大学ライフのススメ～」の講演題目のもと、今後の大学生活を過ごす上で意識すべき考え方、現在の日本を取り巻く世界情勢から見た、今後の日本が必要とする人材像について、講演を行いました。



令和7年5月28日（水） 第1回エフとも通常総会を開催

5月28日、第1回エフとも通常総会を浪江町で開催しました。

総会では、規約の決定や会長・副会長を選出したほか、令和7年度の主な活動等について、エフともメンバー機関の皆様と議論を行いました。

※詳細は下記HPをご確認ください。

https://www.f-rei.go.jp/activity/f-tomo_250528_soukai.html



令和7年6月11日（水） F-REIトップセミナー（福島大学）を開催

6月11日、福島大学食農学類1年生約100名を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REI農林水産業分野の佐々木昭博分野長が講師を務め、「日本農業の将来展望と福島県の可能性」の講演題目のもと、世界の食料需給を踏まえた近年の日本農業の変化、これからの20年で進行する社会情勢を踏まえた今後の農業を支える視点、福島県の農業の現状と課題について、講演を行いました。



令和7年6月18日（水） F-REIトップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催

6月18日、福島工業高等専門学校電気電子システム工学科、機械システム工学科、化学・バイオ工学科の3年生合計約120名を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REIロボット分野の大西公平ユニットリーダーが講師を務め、「過酷環境下で作業できる遠隔操作ロボット」の講演題目のもと、F-REIが目指している頑丈な遠隔操作ロボットの研究開発の現状と課題について、動画を交えて講演を行いました。



令和7年6月19日（木） F-REIトップセミナー（福島工業高等専門学校）を開催

6月19日、福島工業高等専門学校都市システム工学科、ビジネスコミュニケーション学科の3年生合計約90名を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REIの森下信監事が講師を務め、「勉強・研究への心構えについて」の講演題目のもと、将来の進路や研究者に必要な好奇心、問題解決の姿勢について説明しました。

また、研究者に求められる「疑問を持つこと」「学ぶこと」「工夫すること」の3つの態度を紹介するとともに、学校で学ぶことの重要性を説明することで、学生たちに熱心な勉強を促しました。



令和7年7月1日（火） アドバイザー就任

7月1日付でアドバイザーとして4名の有識者にご就任いただくこととなりました。

石村アドバイザー、永田アドバイザー及び原山アドバイザーの3名は再任、小安アドバイザーは新任となります。

アドバイザーは、アドバイザリーボードにおいて、F-REI の運営全般や各事業の状況等について大所・高所からのご助言等をいただくものです。

今後も、高いご見識を持つアドバイザーからの貴重なご助言を活かし、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献するというF-REI のミッションを達成するため、F-REI 一丸となって取り組んでまいります。



石村 和彦（いしむら かずひこ）
産業技術総合研究所理事長



小安 重夫（こやす しげお）
量子科学技術研究開発機構理事長



永田 恭介（ながた きょうすけ）
筑波大学長、国立大学協会会長



原山 優子（はらやま ゆうこ）
元 総合科学技術・イノベーション会議
常勤議員

※五十音順
※2025年7月時点

令和7年7月4日（金） 出前授業（原町高等学校）を開催

7月4日、原町高等学校の1年生から3年生（計39名）を対象として、（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した出前授業を行いました。

F-REIの委託研究（福島浜通り地域における復興・再生まちづくり研究）に携わっている、東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 空間デザイン戦略研究分野所属の苅谷智大特任准教授が講師を務め、「東日本大震災からの復興とアントレプレナーシップ」の講演題目のもと、授業を行いました。

震災の影響が大きかった地域に関するクイズ等を交え、学生たちと対話する形式で震災当時の状況を説明するとともに、その後の復興状況、復興に関わってきた様々な方々を紹介することで、復興に係るまちづくりとアントレプレナーシップの考え方について学び、参加した学生たちにとって、「福島での復興・再生に必要なことは何か」、「そのために、自分たちができることは何か」を考えるきっかけとなった様子でした。



令和7年7月11日（金）

F-REI座談会（浜通り地域等・エネルギー分野）を開催

7月11日、「F-REI座談会（浜通り地域等・エネルギー分野）」をいわき市で開催しました。

本座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として開催するもので、今回はF-REIの研究開発分野の1つである「エネルギー分野」を取り上げました。

座談会では、F-REIのエネルギー分野における研究開発事業について講演を行った後、福島県内で水素・アンモニア研究に取り組まれている機関やいわき市でバイオマス利用に取り組まれている事業者の方々と交えたパネルディスカッションにおいて、「バイオマス利用 -水素等を利用したカスケード利用の推進-」をテーマに多様な視点から活発に議論いただきました。当日はオンラインを含めて約130名の方々に参加いただき、盛況のうちに終わることができました。



令和7年7月14日（月） F-REIトップセミナー（筑波大学）を開催

7月14日、筑波大学リスク工学研究会（RERM）に所属する学生及び同大学の教職員、合計約65名（オンライン受講者含む）を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REIの山崎理事長が講師を務め、「福島国際研究教育機構（F-REI）の創造的復興への挑戦～2年間のあゆみと浜通り地域の未来づくり～」の講演題目のもと、F-REI設立から2年間の挑戦について、研究開発と産業化の取り組みを中心に講演を行いました。



令和7年7月15日（火） 第5回アドバイザリーボードを開催

7月15日、今年度最初の開催となる第5回アドバイザリーボードを開催いたしました。

アドバイザリーボードは、アドバイザーからF-REIの運営全般や各事業の状況等について、大所高所からのご助言をいただくため、開催するものです。当日はアドバイザー4名と山崎理事長をはじめ、役員、執行役、広域連携監、分野長、副分野長等が出席しました。

はじめに、F-REIの最近の動向について説明し、その後、産総研における社会実装の取り組みについて、石村アドバイザーからご講演いただいたのち、F-REIの産業化の取組を説明し、活発な意見交換を通じてアドバイザーの皆様から有意義なご助言をいただきました。



令和7年7月28日（月） 出前授業（日本大学東北高等学校）を開催

7月28日、日本大学東北高等学校の2年生約20名を対象として、（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した出前授業を行いました。

F-REIの地域環境共創ユニット所属の石井由美子主任研究員が講師を務め、「福島原発事故後の水辺で起きたこと：魚と放射性物質の関係」の講演題目のもと、授業を行いました。

授業では、原発事故発生後の復興状況や放射線被ばくと人体への影響、F-REIにおける放射線セシウムの動態研究について説明するとともに、課題解決に向けた科学的アプローチの方法について紹介しました。参加した学生たちにとって、将来の課題解決に向けた考え方のヒントを得る機会となった様子でした。



令和7年7月29日（火） 第4回新産業創出等研究開発協議会を開催



7月29日、第4回新産業創出等研究開発協議会を南相馬市で開催しました。

会議では、輿水恵一復興副大臣及び内堀雅雄福島県知事にもご臨席いただき、F-REI及び復興庁から構成員に対し、研究開発の進捗や施設整備の状況などについて報告を行った後、今後の浜通り等地域の復興に向けた連携の在り方について構成員による活発な意見交換が行われました。



令和7年8月1日（金） 分野長・副分野長（原子力災害に関するデータや 知見の集積・発信分野）の決定

8月1日、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野において、分野長及び副分野長各1名に就任いただきました。これにより、分野長5名、副分野長9名の構成となりました。

原子力災害に関する データや知見の 集積・発信分野		【分野長】 今村 文彦 （いまむら ふみひこ） 東北大学 副学長
		【副分野長】 出口 敦 （でぐち あつし） 東京大学 執行役・副学長

令和7年8月1日（金） 研究体験講座を開催

8月1日、福島県環境創造センターにて、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立環境研究所（NIES）及び福島国際研究教育機構（F-REI）の4機関連携による研究体験講座が開催されました。

今回は福島高等学校のスーパーサイエンス部1年生9名がF-REIの「放射線を探せ-ノーベル賞の発明を100均で作ろう-」コースに参加しました。ここでは、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野 地域環境共創ユニットの青野辰雄ユニットサブリーダーが講師を務め、「放射線計測器による放射線の測定により、その特徴を理解する実験」、「身近な材料による霧箱の作成及び霧箱を用いた放射線の観察」を行いました。

参加した高校生からは、「放射線を可視化する原理やしくみについて、皆で考えながら霧箱を作り放射線を観測できたため理解が深まった。」などの感想を頂きました。



令和7年8月3日（日） 出張版サイエンスラボを開催

8月3日、出張版サイエンスラボを福島県ハイテクプラザにて開催された「あつまれっ！ハイテクプラザ2025」への出展ブースにて、出張版のサイエンスラボを開催しました。

今回のサイエンスラボは、電子工作&プログラミング体験を軸に実施し、「複数の電子部品を組み合わせた電子回路の組み、LEDを光らせる工程」と「プログラムによりLEDの光らせ方を変える工程」の2つを体験してもらいました。

ブースに来た子どもたちは、普段触れる機会のない電子部品やプログラムに興味を持った様子で、どのように繋がればLEDが光るのか、プログラムを書き換えればどのように変化するのか、色々と試していました。



令和7年8月4日（月） 出前授業（磐城高校）を開催

8月4日、磐城高校の1年生～3年生の希望者約20名を対象として、（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した出前授業を開催しました。F-REIのパワーソフトロボティクスユニットの鈴森康一ユニットリーダーが講師を務め、「パワーソフトロボティクス」の講演題目のもと、授業を行いました。

授業では、ソフトロボットについて「いいかげんなロボット」と表し、柔らかく融通が利き、生体システムの価値観に合うものであることを説明し、人工筋肉や内視鏡等の医療への有用性について、動画や実物を見せながら紹介をしました。

参加した学生たちにとって、最先端の技術に触れる機会となるとともに、ロボット分野への興味関心を持つ機会となった様子でした。



令和7年8月16日（土）～17日（日） 国際STEAMワークショップ in Fukushima 2025で 山崎理事長が基調講演を実施

8月16日～17日、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）の主催で、F-REIが後援している「国際STEAMワークショップ in Fukushima 2025」が双葉産業交流センター（F-BICC）で開催されました。

F-REIの山崎理事長が国内共同議長を務め、基調講演を行ったほか、F-REIの原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野の高村昇ユニットリーダーが特別講演を行いました。また、農林水産業分野の二瓶直登ユニットリーダー、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野の武田伸一郎主任研究員がメンターとして講演及び参加者のサポートをしました。

福島県内外、及び海外から参加された計62名の学生たちは、世界で活躍する研究者の講演やグループディスカッションをとおして、自身の今後のキャリア形成について、考える機会となったようでした。



令和7年8月18日（月） 国際アドバイザーとの意見交換を実施

8月18日、国際アドバイザーのフィオナ・レイモン博士がF-REIを訪問し、役員等と意見交換を行いました。

F-REI側からレイモン博士に対し、直近のF-REIの活動状況や施設の整備、研究開発に関する活動を説明し、質疑応答を通じて、理解を深めていただきました。その後F-REIを国際的な研究拠点にするための方途等について活発な意見交換が行われました。

また、意見交換後に、レイモン博士に地域の現状の理解をより深めていただくため、双葉町減容化施設の視察を行いました。



令和7年8月19日（火）～22日（金） 2025カーカム会議に参加

8月19日～22日に、土壌物理学の国際会議「2025カーカム会議」がJヴィレッジ（楡葉・広野町）で開催されました。本会議は、学際的な議論と新たな研究の推進を目的に、4年に1度開催されています。

F-REIからは、農林水産業分野の藤井一至ユニットリーダーが参加し、ポスター発表や飯舘村での視察現場において土壌に関する説明を行いました。また、19日と22日には会場でブースを出展し、来場者に対してF-REIの取組や研究内容を紹介しました。さらに、初日のウェルカムパーティでは、山崎理事長による開催に向けたメッセージ動画も上映され、F-REIの国際的な発信力をアピールしました。



令和7年8月25日（月）～27日（水） 令和7年度サマースクールを開催

8月25日～27日の3日間、福島大学・福島医大・会津大学・福島高専の学生5名を対象に、令和7年度サマースクールを福島ロボットテストフィールド（RTF）等を会場として開催しました。

1日目は廃炉資料館、RTFの見学、RTF関連企業である（株）リビングロボット 代表取締役社長 川内康裕氏による講話を行いました。2日目には、遠隔操作研究ユニットの大西ユニットリーダーによるリアルハプティクス技術を導入した遠隔操作ロボットに関する講義・実験、山崎理事長による講演、3日目には、参加学生による成果発表会を行いました。

参加した学生からは、「自身の行っている研究に深く関わる内容で、大変勉強になった。」、「研究者の新しい考え方を知ることが出来る貴重な機会だった。」等の意見をいただきました。



令和7年8月29日（金）

国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究中心と連携・協力に関する協定を締結

8月29日、国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究中心（CSRS）とF-REIは、土壌生態系の理解に基づく持続可能型農業の基盤構築に向けた研究推進のための、連携・協力に関する協定を締結しました。

本協定に基づく共同研究等の実施により、CSRSの基礎科学・先端技術とF-REIのフィールド・社会実装力を掛け合わせるとともに、福島での実証を通じて、気候変動対応・低化学肥料・脱炭素という国際的課題の解決に繋がります。

<具体的な連携事項>

- (1) 共同研究の推進
- (2) 研究施設、設備等の相互利用
- (3) 研究者の学術交流及び人材育成
- (4) 情報発信の相互支援及び共同実施
- (5) その他、本協定の目的遂行上必要な事項

令和7年9月13日（土） F-REIサイエンスラボ「秋のわくわく科学実験」を開催

9月13日に、「エフレイサイエンスラボー秋のわくわく科学実験ー」をいわき市（会場：福島工業高等専門学校（福島高専））で開催しました。

今回は、県内外（※）の小学4～6年生の親子67組（134名）からご応募いただき、抽選で選ばれた30組（60名）にご参加いただきました。

当日は、福島高専の学生さんにもご協力いただき、①霧箱作成と放射線の観察実験、②オリジナルLEDを作る電気工作実験を行いました。参加者の皆さんにとって、科学に関する知識、関心を深める機会となった様子でした。

※県外：神奈川県横浜市、茨城県水戸市
県内：いわき市、南相馬市、須賀川市、広野町、大熊町

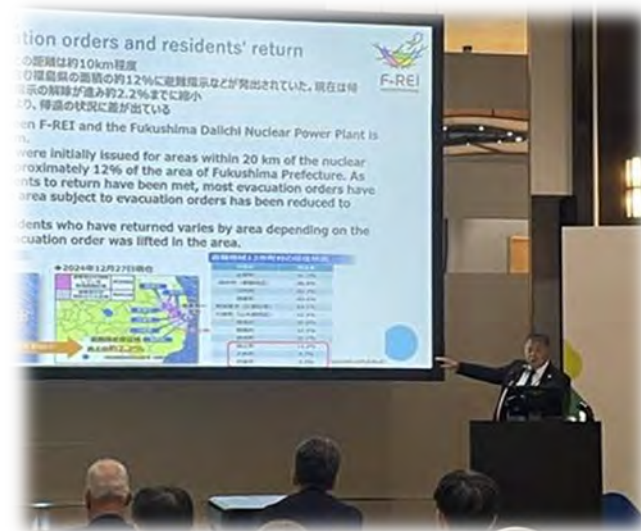


令和7年9月16日（火） F-REI・CCRI国際ワークショップを開催

9月16日、F-REIとCCRI（放射線諮問委員会）の合同ワークショップを、福島県南相馬市で開催しました。

本ワークショップでは、CCRI委員と国内専門家が集結し、放射線の医学応用や計量標準について国際的な視点から議論を行い、F-REIからは山崎理事長と、放射線科学・創薬医療分野の絹谷副分野長（兼 放射性創薬ユニットリーダー）が登壇しました。

当日は、現地・オンライン合わせて120名以上の方にご参加いただき、大変盛況となりました。



令和7年10月10日（金）～12日（日） WRS2025過酷環境F-REIチャレンジを開催

F-REIは、10月10日（金）～12日（日）に、「World Robot Summit (WRS) 2025過酷環境F-REIチャレンジ」を福島ロボットテストフィールドで開催しました。

本チャレンジは、災害現場などの過酷環境で活躍するロボット・ドローン技術の実用化を目的とした国際競技で、国内外の研究機関・企業が参加をし、白熱した戦いが繰り広げられました。

会期中は、多くの皆様にご来場・ご声援をいただき、連日大盛況のうちに3日間の大会を終えることができました。

※主催：F-REI、共催：経済産業省、後援：復興庁、福島県、南相馬市、浪江町
詳細は下記HPをご確認ください。

https://www.f-rei.go.jp/activity/wrs_sp.html



令和7年10月21日（火） エフともカフェ（浪江町）を開催

10月21日（火）に、浪江町役場で「エフともカフェ」を開催しました。「エフともカフェ」とは、F-REIが「エフとも」の活動の一環として行う、人材育成や地域づくりを目的とした対話の場です。

今回は、双葉郡内の指導主事等の先生方にご参加いただき、ライフイズテック社の讚井康智取締役を講師に迎え、生成AIの講習会を主に行いました。

また、エフとも会長の高谷理事は、F-REIおよびエフともの概要説明に加え、将来の人材像や地域の教育課題解決に向けた想いを語りました。さらに、F-REIの武田主任研究員は、自身の研究活動の紹介に加え、NASAの街として知られる米国アラバマ州ハンツビルでのサイエンスバーの様子と、その経験を踏まえた地域貢献や交流への想いを語り、プログラミング教育の提案として、Pythonを用いたLED点灯プログラムの実演も行いました。



令和7年10月28日（火） 東京大学大学院情報学環と連携協力に関する 基本合意書を締結

10月28日、東京大学大学院情報学環とF-REIは、研究開発や人材育成等での連携協力について基本合意書を締結しました。

この基本合意書に沿って双方の資源を有効に用いるなど互恵的な連携協力を進めていきます。

また、締結式後、東京大学大学院情報学環情報学環総合防災情報研究センター/F-REI大規模災害レジリエンス研究ユニットリーダーの関谷直也が、「東京電力福島第一原子力発電所からの処理水放出の受け止めに関する国際比較調査」と題し、講演を行いました。



令和7年10月28日（火） 出前授業（会津学鳳高等学校）を開催

10月28日、会津学鳳高等学校の全校生徒590名および会津学鳳中学校の3年生90名の計680名を対象として、出前授業を開催しました。

F-REIの土壌ホメオスタシス研究ユニットの藤井一至ユニットリーダーが講師を務め、「私が土を研究する理由～福島から火星まで～」の講演題目のもと、授業を行いました。授業では、土とは何か、なぜ大事なのか、世界の土、日本の土、福島の土の状況を紹介するとともに、土について研究する理由とF-REIについて説明しました。

参加した学生たちからは、身近にある「土」の奥深さを知ることが出来た、科学や土について興味を持つきっかけとなった等の感想がありました。



令和7年10月29日（水） エフともカフェ（双葉町）を開催

10月29日、双葉町のFUTAHOMEにて、地域交流イベント「HOMEあう会」との合同で「エフともカフェ」を開催しました。

当日は、双葉町周辺地域の皆さまを中心に、50名を超える多くの方々にご参加いただきました。今年の夏に双葉町で実施された大学生によるまちづくりワークショップの活動報告を聞いた後、グループディスカッションを行い、参加者同士でこれからの双葉について自由に意見を交わしました。会場では多彩なアイデアや前向きな意見が飛び交い、活気あふれる時間となりました。

そして、F-REIからはF-REIの概要や「エフとも」の取組について紹介し、F-REIへの印象や地域との関わり方など、さまざまなご意見をいただき、今後の「エフとも」の活動をより充実させていく上で貴重な機会となりました。



令和7年10月30日（木） 出前講義（東北大学）を開催

10月30日、東北大学・川内キャンパスで、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、工学部の学生約60名を対象として、出前講義を実施しました。

東北大学の教養科目の一コマを大和田祐二執行役が担当し、「創造的復興の中核拠点F-REI」と題して、F-REIの紹介やご自身の専門分野についての講義を行いました。



令和7年11月1日（土）～2日（日） F-REI国際シンポジウムを開催

11月1日～2日、F-REI国際シンポジウム
“Collection and Dissemination of Data
and Knowledge Related to Nuclear
Disaster Resilience and Science”を福島
県楢葉町で開催しました。

本シンポジウムでは、「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」分野に関係する国内の大学・研究機関に加え、原子力災害医療科学分野に関わるICRP、IAEAといった国際機関・国際委員会の関係者が集結し、F-REIとの連携等について協議しました。

当日は、現地・オンライン合わせて100名以上の方にご参加いただき、大変盛況となりました。

※本シンポジウムの運営は、長崎大学に委託して実施しました。



令和7年11月4日（火）～5日（水） 英国原子力公社（UKAEA）と廃炉ロボット技術に 関するワークショップを開催

11月4日～5日、英国原子力公社
（United Kingdom Atomic Energy
Authority, UKAEA）と廃炉ロボット技術
に関するワークショップを東京にて開催しまし
た。

本ワークショップでは、UKAEAから廃炉ロ
ボット技術の研究事例や社会的インパクト
に関する取組などがプレゼンテーションされ、
F-REIロボット分野の研究者、及び東京電
力ホールディングスや日本原子力研究開発
機構などの日本国内の廃炉に関わる企業、
有識者と多岐にわたる意見交換が行われ
ました。



令和7年11月7日（金） F-REIトップセミナー（福島県立医科大学）を開催

11月7日、福島県立医科大学保健科学部の3年生約25名を対象にF-REIトップセミナーを行いました。

F-REI放射線科学・創薬医療分野（第4分野）の茅野政道副分野長が講師を務め、「放射線科学の現状と展望」の講演題目のもと、放射線・放射性物質の医療への貢献や現在注目されている技術の紹介、F-REI第4分野の今後の展望について講演を行いました。

参加した学生にとって、自身の研究や進路と関連付けて、放射線・放射性物質の医療について考える機会になった様子でした。



令和7年11月19日（金）

福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin会津大学を開催

11月19日、「福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin会津大学」を会津大学で開催しました。

本フォーラムは、福島県が主催し、F-REIおよび福島イノベーション・コースト構想推進機構が共催するもので、イノベ構想及びF-REIの理解醸成と広域的な連携促進を目的としています。

今回のフォーラムでは、F-REIからは村田文夫広域連携監が「創造的復興への挑戦」をテーマにF-REIの取組を紹介したほか、大谷謙仁研究開発推進第一課長が過酷環境ロボティクスを中心としたF-REIのロボット分野の研究開発について説明しました。



令和7年11月22日（土）、29日（土） 「おしごと図鑑をつくろう！ -水素タウン編-」を開催

11月22日、29日、「おしごと図鑑をつくろう！ -水素タウン編-」を開催しました。本イベントは、F-REIが地域の子どもたちとつながり、未来を担う人材の育成を目指す「エフとも」の活動として位置づけ、実施したものです。

今回は、県内（※）の小学3年生～6年生が参加し、1日目には、F-REIの活動紹介やエフとも取組の説明、浪江町役場の講話、福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）の見学を行いました。2日目には水素実験（燃料電池をつくろう）を行うとともに、F-REIの研究者と交流を深めました。

参加した子どもたちは「水素ってなんだろう？」、「F-REIや浪江町のおしごとってなんだろう？」、「みんなの暮らしにどのように役に立つのかな？」という様々な疑問を見て・作って・学んだうえで、思い思いのおしごと図鑑を完成させました。

※県内：いわき市、南相馬市、広野町、浪江町、郡山市



令和7年11月26日（水） エフともカフェ（浪江町）を開催

11月26日、浪江町のSTUDIO B-6にて、人材育成や地域づくりを目的とした対話の場「エフともカフェ」を開催しました。

当日は、浪江町周辺地域の皆さまにご参加いただき、STUDIO B-6を拠点に活動されている方々から日頃の取組をご紹介いただくとともに、「これからの地域づくり」をテーマに語り合いました。

質疑応答の時間には、参加者同士で意見を交わす場面もあり、会場は終始和やかで温かい雰囲気になっていました。



令和7年11月26日（水） 出前授業（安積黎明高等学校）を開催

11月26日、安積黎明高等学校の1、2年生約560名を対象として、出前授業を開催しました。

今回の出前授業は、同校の「課題探究シンポジウム 社会の諸課題に目を向ける～みんなで創る、みんなで生きる～」の一部として実施したもので、「共生社会」のテーマのもと、F-REIを含めた4機関の講師からそれぞれの分野についての講演を行いました。

F-REIからは、地域環境共創ユニットの林誠二ユニットリーダーが講師を務め、「地域と協働した環境回復の取り組みを目指して-放射能の影響と14年の変遷を踏まえて-」の演題のもと、講演を行いました。講演では、原発事故後の放射性物質の現状、より地域に着目した課題とそれに伴う地域住民との取組について説明しました。



令和7年11月27日（木） 出前講義（獨協医科大学）を開催

11月27日、獨協医科大学の医学部1年生約130名を対象として、出前講義を実施しました。

大和田祐二執行役が講師を務め、「創造的復興の中核拠点としての福島国際研究教育機構 F-REI」の演題のもと、ご自身の専門分野について、およびF-REIの取組について紹介しました。



令和7年11月29日（土） 出張版サイエンスラボを開催

11月29日、福島市のAOZ（アオウゼ）で福島高等学校が主催する「ふくしまサイエンスフェスティバル2025」への出展ブースにて、出張版のサイエンスラボを開催しました。

今回は「観察・実験・発見！マシュマロタワー大作戦！」と題し、限られた材料でできるだけ高いタワーを作るチャレンジを行いました。参加者はタワーが倒れた理由を観察し、「次はどうすればもっと強くなる？」、「どこを変えようまくいく？」と試し続ける体験を通して、失敗をヒントに工夫を重ねる研究者の考え方に触れてもらいました。

当日は、小学生から高校生、保護者の方まで幅広い年代の方が参加し、年齢に関係なく多様なアイデアが生まれました。自由な発想で作り続ける小学生の子どもたちが、思いがけない高いタワーを完成させる場面もあり、参加者同士が互いの工夫に刺激を受けながら取り組む姿がとても印象的でした。



令和7年12月4日（木） 福島イノベ構想参画促進セミナーin会津若松が開催

12月4日、「福島イノベ構想参画促進セミナー」が、会津若松市のアピオスペースで開催されました。

本セミナーは、福島県が主催し、F-REIが後援となって開催するもので、浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」への理解促進や興味の喚起、参画に繋げるとともに、企業の連携促進の契機となることを目的としています。

今回のセミナーでは、F-REIからは村田文雄広域連携監が「創造的復興への挑戦」をテーマにF-REIの取組を紹介したほか、イノベーション・コースト構想推進機構の取組説明や、イノベ地域で活躍されている企業から、福島イノベーション・コースト構想への参画事例や発注ニーズを紹介いただきました。



令和7年12月9日（火） 出前授業（ふたば未来学園高等学校）を開催

12月9日、ふたば未来学園高等学校の1年生約10名を対象として、出前授業を開催しました。

今回の出前授業は、同校が実施する"エネルギー問題について学ぶ海外研修"に参加する学生を主な対象に、研修の事前学習として福島県の再生可能エネルギーに関する取組を学ぶために実施されました。村田広域連携監が講師を務め、「福島県再生可能エネルギー推進ビジョンと福島国際研究教育機構（F-REI）について」の演題のもと、授業を行いました。

授業では、福島県再生可能エネルギー推進ビジョンに基づいた福島県のエネルギー問題への取組、再生可能エネルギーの導入状況について紹介しました。また、2021年に策定された福島県再生可能エネルギー推進ビジョン2021で追加された取組みの柱の一つ"水素社会"に触れ、F-REIで進められているエネルギー部門の研究についても紹介しました。



令和7年12月17日（水） 出前授業（福島高等学校）を開催

12月17日、福島高等学校のスーパーサイエンス部に所属する1、2年生約20名を対象として、出前授業を開催しました。

今回、F-REIの土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニットの二瓶直登ユニットリーダーが講師を務め、「悩んでOK！ 遠回りが強みになる～これまでに歩んだリアルなキャリア～」の演題のもと、授業を行いました。

授業では、二瓶直登ユニットリーダー自身のキャリアと研究の道に進んだ経緯、現在行っている研究の概要について説明しました。授業開始時には農林水産業の分野に関心が薄かった一部の学生たちからも様々な質問が出るなど、受講した学生たちにとって、農林水産業分野に興味・関心を持つきっかけとなった様子でした。



令和7年12月22日（月） F-REI座談会（ロボット分野）を開催

12月22日、F-REI座談会（ロボット分野）を南相馬市の福島ロボットテストフィールドで開催しました。

本座談会では、超大型ロボット・パワーロボットに係る先端技術の紹介やF-REIのロボット分野における研究開発事業などについて講演を行いました。その後のトークセッションでは、10月に開催された「WRS過酷環境F-REIチャレンジ」で活躍された南相馬ロボット産業協議会及び会津大学、新技術実装連携”絆”特区に指定されている福島県を交えて、「福島から広がるロボット産業の未来像」をテーマに多様な視点から活発に議論いただきました。

その他にも、会場内にて「WRS過酷環境F-REIチャレンジ」で入賞したMISORA 2 及びMARS ZEROの展示や、MISORA 2 によるデモンストレーションを行い、会場を沸かせました。当日はオンラインを含めて約130名の方々に参加いただき、盛況のうちに終わることができました。



令和7年12月22日（月） 第8回HOMEあう会を開催（エフとも協力）

12月22日、双葉町のFUTAHOMEにて、地域交流イベント「第8回HOMEあう会」を、エフとも協力のもと開催しました。

今回は、「YOUはどうしてフクシマへ？」をテーマに、震災以降、国内外から福島に移住し、さまざまな活動に取り組んでいる方々をゲストにお迎えし、福島を選んだ理由や、日本や福島での暮らし、まちづくりへの思いなどについて、それぞれの視点からお話いただきました。F-REIからは、外国籍職員であるサイエンス・コミュニケーターがゲストスピーカーとして登壇し、来日から福島に至るまでの経緯や、現在の福島での仕事、日々感じていることなどを共有しました。

当日は、参加者同士が互いの背景や想いに耳を傾ける中で、新たな気づきや繋がりが生まれ、福島との関わり方の多様さや、それぞれがこの場所に立っている意味を改めて見つめ直す、深い対話の時間となりました。



令和7年12月24日（水） 研究体験講座を開催

12月24日、環境創造センターにて、福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立環境研究所（NIES）及び福島国際研究教育機構（F-REI）の4機関連携による研究体験講座が開催されました。

本講座には、会津学鳳高校の1年生41名が参加し、その内の9名がF-REIのコースに参加しました。F-REIのコースでは、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野 地域環境共創ユニットの青野辰雄ユニットサブリーダーが講師を務め、「放射線を探せ-ノーベル賞の発明を100均で作ろう-」のタイトルのもと、「放射線計測器による放射線の測定により、放射線の特徴を理解する実験」、「身近な材料による霧箱の作成及び霧箱を用いた放射線の観察」を行いました。

参加した学生は自身で考えて霧箱の作成や放射線の測定に取り組むことで、放射線への理解や興味を深めた様子でした。



令和8年1月14日（水）

福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin福島大学を開催

1月14日、「福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラムin福島大学」を福島大学で開催しました。

今回のフォーラムでは、F-REIからは村田文夫広域連携監らが登壇し、創造的復興への挑戦として進めている研究開発や産学官連携の取組を紹介しました。

また、福島イノベーション・コースト構想推進機構による福島イノベ構想の最新動向の説明に加え、福島大学や株式会社福島三技協から産学官連携の事例発表が行われ、多くの連携事例が共有されました。



令和8年1月19日（月）～20日（火） 第2回英国原子力公社（UKAEA）と 廃炉ロボット技術に関するワークショップを開催

1月19日～20日、英国原子力公社（United Kingdom Atomic Energy Authority, UKAEA）からRob Buckingham氏ら関係者が来日し、廃炉ロボット技術に関するワークショップを福島県南相馬市で開催しました。

本ワークショップでは、F-REIロボット分野から各ユニットの研究開発について紹介したほか、経済産業省資源エネルギー庁原子力発電所事故収束対応室や、東京電力ホールディングス株式会社、日本原子力研究開発機構から廃炉に係る現状・課題等がプレゼンテーションされました。これらを踏まえ、UKAEAとF-REI・日本国内の廃炉に関わる企業・有識者が多岐にわたる意見交換を行いました。



令和8年1月21日（水） F-REI研究者と企業の交流会を開催

1月21日、F-REI研究者と県内で活躍する企業との交流会を開催しました。

本交流会は、F-REIと地元企業等の具体的な連携促進を図ることを目的として、F-REIの研究者と福島県内で活躍する企業との双方向のコミュニケーションの場を開くために、福島県企画調整部福島イノベーション・コースト構想推進課、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構、F-REIの三者共催により実施しました。

第1回目となる今回は、福島市のコラッセふくしまで開催し、燃料電池システム研究ユニットの飯山明裕ユニットリーダーと柳澤政成ユニットサブリーダーが、現在実施している研究についての概要を説明しました。その後、ワークショップ形式で、県内でドローン関係の事業に取り組む企業等と意見交換を行い、活発な議論が行われました。



令和8年1月28日（水） エフともカフェ（富岡町）を開催

1月28日、「エフともカフェ」を富岡町で開催しました。今回は、富岡町で障害者当事者対話サロン「きゃべつの葉っぱ」を主宰する辺見珠美さんと、訪問介護・看護サービスを提供する「株式会社はま福」代表取締役の福島芳子さんをゲストにお迎えし、原発事故直後から現在までの歩みを振り返りながら、「原発事故被災地におけるコミュニティづくり」をテーマに、参加者の皆さまとともに語り合いました。

当日は、専門家として福島に入り、住民として福島で生きることを選んだお二人の話に、参加者が熱心に耳を傾け、これからの浜通りのコミュニティづくりについて、たくさんの気づきや学びが生まれる対話の時間となりました。



令和8年2月3日（火） 第6回アドバイザリーボードを開催

2月3日、今年度2回目となる第6回アドバイザリーボードを開催しました。

当日は、アドバイザー4名と山崎理事長をはじめ、役員、執行役、広域連携監、分野長、副分野長等が出席しました。

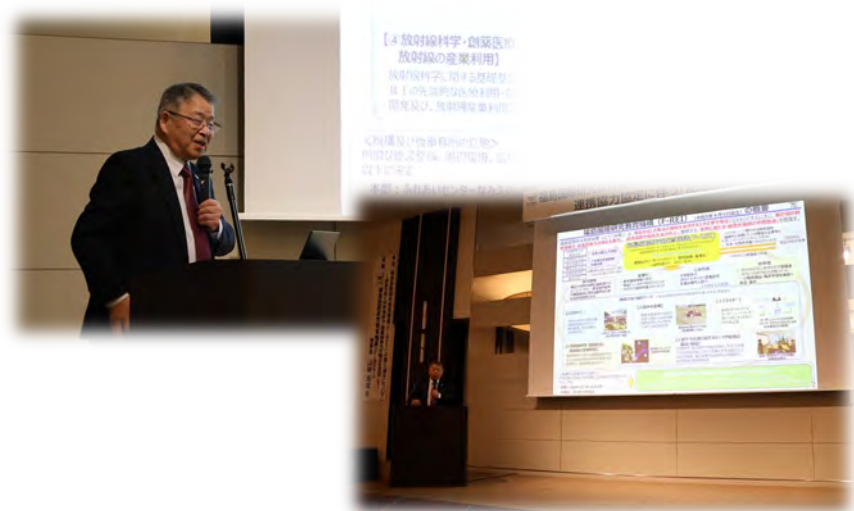
アドバイザリーボードでは、はじめにF-REIの最近の動向について説明し、続いて専門人材の育成について、原山アドバイザーからご講演いただきました。その後、F-REIにおける専門人材に関する取組等を説明し、アドバイザーの皆様から有意義なご助言をいただきました。また、アドバイザリーボードの前には、アドバイザーの皆様にご視察いただき、地域に対する理解を深めていただきました。



令和8年2月9日（月） あぶくま信用金庫と連携協力協定を締結

2月9日、あぶくま信用金庫とF-REIは連携協力協定を締結しました。今後、この協定に基づいて、互恵的な連携協力を進めていきます。

また当日は、山崎理事長より、「福島国際研究教育機構（F-REI）の取組について～未来を拓く科学技術力・産業競争力の拠点を目指して～」と題し、地元企業の経営者の皆さまに向けて、記念講演を行いました。

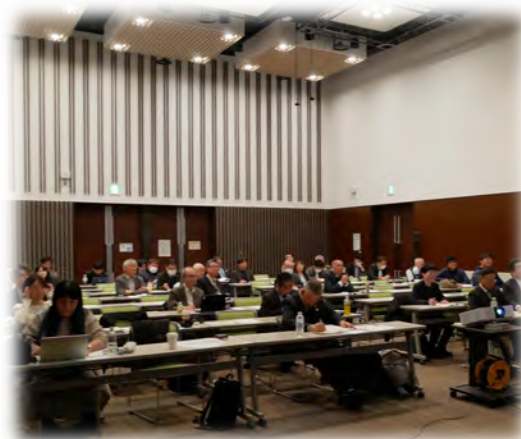


令和8年2月9日（月） いわきものづくり塾® 成果発表会 & 交流セッションを開催

2月9日、「いわきものづくり塾® 成果発表会 & 交流セッション」がいわき市で開催されました。本プログラムは、福島県といわき産学官ネットワーク協会の主催により、昨年10月から実施されてきたものです。F-REIの研究者※による講義を通じて最先端技術の応用展望を学び、その知見を踏まえて事業構想を練り上げるワークショップとして展開しました。

今回の成果発表会では、参加者の皆さまがこれまでの活動を通じて、それぞれの視点から検討を重ねてきた事業構想について発表が行われました。発表終了後には、F-REIの研究者と地域の皆さまを交えた交流セッションも実施し、分野や立場を越えた活発な意見交換が行われました。参加者同士の新たなつながりも生まれ、今後の連携が期待される機会となりました。

※各講義では、エネルギー分野の矢部彰分野長、ロボット分野「燃料電池システム研究ユニット」の飯山明裕ユニットリーダー及び柳澤政成ユニットサブリーダー、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野「大規模災害レジリエンス研究ユニット」の関谷直也ユニットリーダーが講師を務めました。



令和8年2月10日（火） エフともカフェ（大熊町）を開催

2月10日、大熊町の大阪大学福島拠点にて「エフともカフェ」を開催しました。今回は、大阪大学福島拠点の学生の皆さまと、東北大学 苅谷智大 特任准教授をゲストにお迎えし、「大阪大×東北大×学生で語る これからの浜通り」をテーマに、参加者の皆さまとともに語り合いました。

当日は、大阪大学福島拠点の学生による科学班・観光班・キウイ班の3班から活動発表が行われたほか、東北大学の苅谷准教授からはFUTAHOMEの取組についてご紹介いただきました。

イベント後半には、「DJ Night」と題した交流会を実施し、DJ MASHUによる音楽のもと、リラックスした雰囲気の中で会話が弾みました。また、発表を行った学生によるブース出展も行われ、参加者が説明に耳を傾けながら対話するなど、会場各所で活発なやり取りが見られました。



令和8年2月13日（金） 出前授業（原町高等学校）を開催

2月13日、原町高等学校の1、2年生の希望者8名を対象として、出前授業を開催しました。

F-REIの大和田執行役が講師を務め、「F-REIが切り開く未来の医療」の演題のもと、今後の医療の変化について紹介し、医療現場において多職種が連携するチーム医療の重要性について伝えました。また、F-REIの研究として、災害現場や高放射線環境で活躍するロボット技術を紹介し、将来の遠隔手術や精密医療にもつながる可能性について説明されました。

参加した学生からは、研究の進め方などについての質問も出るなど、医療や研究の世界をより身近に感じる機会となった様子でした。



令和8年2月16日（月）、17日（火）、19日（木） プログラミング教育（なみえ創成小学校）を開催

2月16日、17日、19日の3日間に渡り、なみえ創成小学校にて、プログラミング教育を実施しました。本取組は、「エフとも」の活動の一環として、浪江町教育委員会からご相談を受けて実現しました。

本プログラムは、高学年（5、6年生）、中学年（3、4年生）、低学年（1、2年生）にグループ分けし、授業時間を担当しました。講師は、F-REI放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野「放射線基盤技術開発ユニット」の武田伸一郎主任研究員が務め、大阪大学の能町正治特任教授、吉田裕介特任助教にもご協力いただき、各学年に合わせたプログラミング教育を行いました。

児童の皆さんは終始意欲的に取り組み、楽しみながらプログラミングの基礎を学ぶ様子が見られました。



令和8年2月18日（水） 「農林水産分野の先端技術展開事業」の研究成果報告会を開催

2月18日、「農林水産分野の先端技術展開事業」の研究成果報告会を郡山市で開催しました。

本報告会では、これまでの現地実証で得られた研究成果や社会実装の事例を広く共有し、今後の福島農林水産業の創造的復興に向けて、さらなる社会実装の促進につなげることを目的として、令和7年度で終了する本事業の取組と成果について、ポスターセッション形式で報告とディスカッションを実施しました。研究者と県内外で農林水産業に取り組む企業や関係者の皆さまとの活発な意見交換が行われました。

参加者からは今後の実用化に向けた具体的な質問や提案も寄せられ、本事業の成果を次の展開へとつなげる有意義な機会となりました。



令和8年2月18日（水） 第5回浜通り復興リビングラボシンポジウムに参加

2月18日、復興庁が主催する第5回「浜通り復興リビングラボシンポジウム」がCREVAおおくま（大熊町）で開催されました。

本シンポジウムでは、実証事業の成果報告とともに、産官学の多様な観点からリビングラボに参画する主体の拡大や連携強化に向けて議論するセッションが行われました。セッションにはパネリストとしてF-REIから山崎理事長が登壇し、F-REI本施設の整備状況や浜通りに貢献するF-REIの研究、エフともについてお話ししました。

浜通り地域等の復興・再生を担う自治体や民間企業、大学等の関係者との連携強化に向けた交流を深める機会となりました。



令和8年2月27日（金） 出前授業（安積中学校）を開催

2月27日、安積中学校の1年生約60名を対象として、出前授業を開催しました。

F-REIの村田広域連携監が講師を務め、「創造的復興への挑戦-福島国際研究教育機構（F-REI）について-」の演題のもと、東日本大震災と原発事故発生時の状況、その後の復興について説明をしたうえで、復興におけるF-REIの役割とこれからのビジョン、研究内容等の紹介を行いました。その後、「住みたい・働きたいと思われる福島をつくるには」というテーマで、「今の福島の実状や課題」、「課題を解決するために必要な研究は何か」を考えるグループワークを行いました。

「復興」について学ぶ機会が多い生徒たちにとっても、新たな視点で学ぶ機会、これまでに学んだことを再確認する機会になった様子でした。



令和8年3月5日（木） 第37回国際セミナーで山崎理事長が講演

3月5日、公益財団法人国際研修交流協会の主催で「第37回国際セミナー」が東京都内で開催され、山崎理事長が講演を行いました。

本セミナーでは、カーボンニュートラル実現に向けた次世代エネルギー、特に水素エネルギーや核融合といった先進的技術の最前線についての情報提供があったほか、福島復興の歩みと今後の展望について議論が深められました。

山崎理事長からは、創造的復興を目指すF-REIの取組について講演を行い、参加者にとって福島浜通りの復興の進むべき方向について考える機会となった様子でした。



令和8年3月10日（火） 兵庫県立大学と連携協力に関する基本合意書を締結

3月10日、兵庫県公立大学法人兵庫県立大学とF-REIは、連携協力に関する基本合意書を締結しました。

今後、この基本合意書に沿って、互恵的な連携協力を進めていきます。



令和8年3月17日（火）

令和7年度 第1回 F-REI産学官ネットワーク・セミナーを開催

3月17日、「令和7年度 第1回 F-REI産学官ネットワーク・セミナー」を福島市で開催しました。

本セミナーでは、農林水産業分野を中心に、ロボットやエネルギー分野などとも関連する研究について、F-REIの研究や県内外の企業の先進的な取組を交えながら紹介しました。農業・林業・水産業・スマート化をテーマに、研究と現場の取組への理解を深めるとともに、企業等のネットワーク構築にもつながる内容となりました。

F-REIからは、藤井一至ユニットリーダー、田野井慶太郎ユニットサブリーダー、佐藤陽一ユニットリーダー、大石潔ユニットサブリーダーの順で4名が登壇し、講演を行いました。

講演後には活発な質疑応答が行われたほか、セミナー終了後には研究者と参加者による交流会も開催され、参加者同士の交流が深まる機会となりました。



令和8年3月17日（火） 放射性物質の分析人材育成（現地訪問型研修）を実施

3月17日（火）に、福島浜通り地域に立地する廃炉関連の分析施設での現地訪問型研修を実施しました。

本研修は、放射性物質の分析業務に従事する人材の裾野を広げることを目的に実施したもので、当日は19名の方にご参加いただき、東京電力廃炉資料館、東京電力福島第一原子力発電所、JAEA大熊分析・研究センターを訪問し、廃炉作業の進捗状況や放射性物質の分析業務について学びました。



令和8年3月19日（木） 「Idea for Future Award 2025ふくしま with F-REI」の表彰式を開催

F-REIは福島県と協力し、中学生を対象としたアイデアコンテスト「Idea for Future Award 2025 福島with F-REI」を実施しました。

県内の中学生から、F-REIの研究開発テーマを福島未来につなげるためのさまざまなアイデアが寄せられました。3月19日（木）にグランプリ、特別賞を受賞された生徒さんへの表彰式が執り行われました。



令和8年3月19日（木） 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会で 大西ユニットリーダーが講演

3月19日、福島県環境創造センター交流棟（コミュタン福島）にて、「遠隔操作研究ユニット」の大西公平ユニットリーダーが講演を行いました。講演では、リアルハプティクス技術を紹介したほか、装置の実演や操作体験も実施しました。参加者の皆さまに実際に装置に触れていただきながら、リアルハプティクス技術への理解を深めていただきました。

後半には、科学コミュニケーターの本田隆行さんの進行のもと座談会を開催しました。参加者から多くの質問が寄せられたほか、技術の応用アイデアについても活発な意見交換が行われました。



令和8年3月20日（金） 出張版サイエンスラボを開催

3月20日、福島工業高等専門学校にて開催された「サイエンスフェア」への出展ブースにて、出張版のサイエンスラボを開催しました。今回のサイエンスラボのテーマは「見える！？消える！？偏光マジックボックスを作ろう！」。光の性質の一つである「偏光」の特性を生かした"見えるけど存在しない黒い壁"を作る工作や実験を行いました。

本イベントには、200名の小学生とその保護者が参加し、F-REIブースには計82名の児童と保護者にご参加いただきました。参加した児童は、"黒い壁"をビー玉がすり抜ける様子を観察し、「なんで？」、「すごい！」など様々な反応を示しながら、光の性質について楽しく学んでいました。



令和8年3月26日（水） 浪江・富岡ロータリークラブ合同例会に参加（エフとも）

3月26日、いわき市のワンダーファームにて開催された「浪江・富岡ロータリークラブ合同例会」に、エフともの活動としてF-REIも参加しました。

今回は、年に一度の「浪江ロータリークラブ」と「富岡ロータリークラブ」の合同例会として開催され、双葉郡でご活躍されている様々な企業の代表者が参加していました。

当日は、山田総務部長が約20分の卓話を行い、「福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦～3年間のあゆみと浜通り地域の未来づくり～」をテーマに、F-REIの研究、産業化、人材育成、広域連携の取組について説明しました。特に、浜通りが「常磐カリフォルニア」と呼ばれる日を目指すという、F-REIの山崎理事長のビジョンは参加者にとって新鮮だったようで、会場は大いに盛り上がりました。



※ロータリークラブとは、1905年にアメリカで設立された地域社会への貢献と国際的な平和構築を目指す団体で、世界中に120万人以上の会員を有しています。

令和8年4月1日（水） 分野長・副分野長が就任

4月1日、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野において、分野長1名および副分野長1名、農林水産業分野において副分野長2名が就任しました。これにより、分野長5名、副分野長11名の構成となります。

放射線科学・創薬医療、 放射線の産業利用分野		【分野長】茅野 政道（ちの まさみち） 福島国際研究教育機構 前副分野長 （放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用分野）
		【副分野長】伊藤 久義（いとう ひさよし） 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 前理事
農林水産業分野		【副分野長】中谷 誠（なかたに まこと） 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 前副理事長
		【副分野長】中山 一郎（なかやま いちろう） 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 前理事長

令和8年4月1日（水） 岩手大学と連携協力に関する協定を締結

4月1日、岩手大学とF-REIは、岩手大学大学院連合農学研究科の教育研究の一層の充実と大学院生の資質の向上を図るとともに、相互の研究交流の促進をもって、農林水産分野における学術及び科学技術の発展に寄与することを目的に、連携協力に関する協定書を締結しました。

＜主な連携事項＞

- ・連合農学研究科全専攻における教育・研究の連携
- ・客員教員制度による研究科指導体制の強化
- ・学生の研究活動支援



F-REI

福島国際研究教育機構